

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	bonキッズ谷町		
○保護者評価実施期間	2025年 7月 1日		2025年 8月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	2025年 8月 1日		2025年 8月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 10月 3日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	生活空間が、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていて、子ども達の活動に合わせた空間となっていること。	けが防止のため角力バーやクッションフロアを設置し、破損などないか毎月安全点検をしています。また、利用児童の状況など活動内容によって備品の配置を変更するなどの配慮を行っています。利用者様の心身の状態に合わせ、可能な限り物理的な配慮に努めています。	定期的に、療育スペースの構造化の見直しをしたり古くなったものは新調するなど意識的に行っています。
2	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から具体的な支援内容が設定されていること。	ガイドラインができる前から子どもの課題を5領域に分け、それぞれ達成可能な具体的な目標を設定して取り組んできました。この度ガイドラインができたことでそれに沿って領域の区分を分け、すべての領域における支援目標を立てて取り組みました。	子どもの状態や保護者様のニーズにより、重点を置く目標はそれぞれ異なりましたが、今後も丁寧に関わりを行い具体的に支援内容を設定して行きます。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がないこと。	大阪市の専門療育という事業所の性質上、外部の子どもと利用児童の交流を図りにくい構造である。	専門療育によりつながりやすいように利用児童以外の子どもの相談に応じるサービスなどがあれば、より地域に開かれた事業所となると思われる。
2	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っていないこと。	大阪市の専門療育という事業所の性質上、地域住民や地域との交流を図りにくい構造である。	今年度は、地域のイベントに出店する形で地域の方と交流する機会が1回のみでしたがありました。どう継続していくか、事業所内での企画運営は可能かなど検討していく必要があります。
3			